

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

13

第三幕 第4場

1522年2月 ロヨラ城の城門

登場人物： 騎士 イニゴ・デ・ロヨラ
イニゴの次兄・城主 マルティン・ガルシア・デ・ロヨラ
イニゴの義姉・城主夫人 マグダレーナ・デ・ロヨラ
二人の姪
イニゴの三番目の兄 ロペス・デ・ロヨラ神父
主治医 Dr. エセイサバレナ
医師 Dr. カンガス
執事ほか、ロヨラ家の家臣、使用人たち、村人たち

イニゴ： では行ってまいります。長い間お世話になりました。

兄ガルシア： イニゴ、やっぱり行くか！ 勿体無いと思うが、しょうがないな。

イニゴの決意がこれだけ堅いのであれば。

姉マグダレーナ： それがイニゴにとって一番幸せな道なのだと思うようになりました。

私も付いて行きたいくらいですわ。

兄ガルシア： おいおい、それだけは止めてくれ。俺が干上がっちゃうではないか。

姪： イニゴ叔父様の足大丈夫かしら？ 旅の荷物が重いと傷に良くないと思うわ。

イニゴ： 大丈夫。お母さんやあなたたち二人が本当に良く看護してくれたからね！

もうすっかり元気になったよ。足を少し引きずるほかは。

Dr.エセイサバレナ： 去年の夏のことを考えると夢のような気がしますな。

Dr.カンガス： 本当に。洗礼者ヨハネのころは、我々も匙を投げる寸前でしたね。聖ペテロの祝日の晩の、あの奇跡的な回復には、我々医者たちの力を超える力が働いてました。イニゴ様のこの度の並々ならぬご決心も、神からのものでしょう。

執事： イニゴ様、村人が大勢 お見送りに来ております。

イニゴ：ほんとうだ。誰が知らせたんだろう？静かに出かけたかったのに。

家臣フェルナンデス：イニゴ様の今までのご親切に、皆一言お礼を言いたいのですよ。それに昔の若様のなさり様と、今のお志との違いを聞いて皆びっくりしているのです。

兄ガルシア：皆が見ているのだから、せめてわが領地内では、ロヨラ家の一員らしく、馬に乗って堂々と出発してくれよ。

イニゴ：兄さん、馬の代わりに、それではラバを一頭ください。
本当は徒歩で行きたいのですが、長旅となると足が言うことを聞きません。

兄ガルシア：ラバ？馬でなく・・・？しょうがないな。乗っていきなさい。
家臣の中から何人か伴に連れていくがいい。

兄ロペス・デ・ロヨラ神父：オニャーテまで私も行こう。イニゴをナヘラ公の宮殿に送り届けた後 妹のうちに泊まればいい。

イニゴ：そんなにまでしていただいて恐縮です。それでは皆さんごきげんよう。
A Dios !

【黒い使いの合唱】

♪イニゴよイニゴ うつけ者 巡礼の道は 甘くない
おまえみたいな なまくらに ほんの三日も 勤まるまい

【白衣の天使の合唱】

♪ああイニゴ 遂に来たれり 靈的に 生まれ変わって
神にのみ 信頼を置き 巡礼に 門出する日が